



Chamber, 2021 ©Etsuko Watanabe, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



Qf · SHOH (掌) 90 · Holz-22, 2020 ©Toshiya Motai

渡辺えつこ × 母袋俊也 Gegenüberstellung / confrontation 対置

Etsuko Watanabe × Toshiya Motai
Gegenüberstellung / confrontation

会期：2021年3月6日(土) - 4月10日(土)

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間:12:00-18:00 定休日:日、月、祝日

*オープニングレセプションは開催いたしません。

【ご来廊時のご協力につきまして】

*発熱、頭痛、咳、呼吸困難、倦怠感、嗅覚味覚異常など体調のすぐれないお客様はご来廊をお控えいただくようお願い致します。

*マスクのご着用をお願い致します。またご来廊時には入口にて手指のアルコール消毒と、非接触型体温計による検温にご協力いただくようお願いしております。

*万が一関係者などから新型コロナウイルス感染症の発症があった場合、連絡を差し上げられるよう、ご連絡先の記入をお願い致します。

*大人数でのご来廊はなるべくお控えください。

*混雑が発生した場合は、入場制限をすることがございますのでご了承ください。

ギャラリーでの換気のため、常時ドアと窓を開放しております。スタッフは毎日必ず検温を含む健康チェックを行い、手洗い、消毒液による殺菌をこまめに行なっております。予防対策として、マスクを着用し、ご対応させていただく場合がございます。

*弊廊ウェブサイトを随時更新してまいりますので、ご確認の上ご来廊くださいますようお願い申し上げます。

2021年3月6日(土)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuでは、渡辺えつこと母袋俊也の2人展「Gegenüberstellung / confrontation 対置」を開催いたします。

渡辺えつこは、国立デュッセルドルフ芸術大学でゲルハルト・リヒターに師事し、以来、約30年間に渡りドイツを拠点に活動しました。現在は日本にスタジオを構え、作品を制作しています。渡辺の絵画は、TVのモニターに映された映像や、解像度の荒い画像を思わせる場面を写実的に描く絵画などを発表してきました。瞬間的に「画像」へと変換された一場面を、手作業をともなう絵画という手法によって、画像の歪みやノイズまでを丹念になぞるようにして描くその作品は、「画像」と「絵画」のあいだにある複数の時間の層や、デジタルとアナログのあいだにある視覚認識の差異を改めて浮き彫りにします。

母袋俊也は、東京造形大学に学び1983年に渡独。フランクフルト美術大学絵画・美術理論科でライマー・ヨヒムス教授に学ぶなど、渡辺と同じく、ドイツでの活動歴をもつ画家・美術理論家です。2019年には、自身の美術論集を編纂した『絵画へ1990-2018美術論集』も出版されました。母袋は、制作と理論の双方から「絵画におけるフォーマットと精神性」についての思索を深めてきました。その思考は、画家のグリュネヴァルトが感染症の治療を行う施療院のために描いた《磔刑図》から着想を得た絵画や、アンドレイ・ルブリョフのイコン画をモチーフにした近年の〈Qf〉系絵画に結実しています。二人の画家が、絵画という実践を通して、さまざまな「対置」を展開する本展を、ぜひ、ご覧ください。



■アーティストステートメント

「Chamber」について

描くために写真を使う時、壊れた画像を使うことがある。絵となるイメージが広がる故に。

西洋では文化のあらゆる局面で窓の意味性は強い。残念ながら今日の日本の建物で窓の存在感は薄い。

4年程前に住んでいたアパートで、目の前に高層ビルが建つことになった。目の前に広がるであろう窓の光景に期待が膨らみ、描くことを妄想していた。夜景の窓の光に目が誘われる。しかしながら、これらが作品として展開し始めたのは昨年になってからだった。

写真にデジタルレタッチすることにより、窓の外側、内側だけではないイリュージョン的な空間の歪みが生じる。そこはまた新たな絵のイメージが入り込む余地になる。

元々は一つの画面上に抽象性も具象性も共存していた絵画。今日は再び画面上に多様なエレメントが共存し、独自の言語として成り立たせることのできる時代でもある。Chamberは画面上にさまざまな様相を映し出しながら共存し無限に広がる。

2021.1.25 渡辺えつこ

「Gegenüberstellung / confrontation 対置」展を前に

僕が絵を描くのは、知っているものや見えているものを描くことなどではなく、世界を見てみたい、世界に触れてみたいからに他ならない。

なぜならまだ僕たちは世界を知らないのだから。

そしてリアリズムが現実の肯定だとするならば、僕をイデアリストと言った人の考えを肯定したい。

僕はフォーマット(画面の比率)と精神性の相関をテーマに制作展開してきている。それは〈TA〉〈奇数連結〉〈パーティカル〉〈Qf〉〈Himmel Bild〉の系列として体系を形成してきた。

本展では正方形フォーマット〈Qf〉系を出品する。

2001年に開始された〈Qf〉系は、ルブリョフの《聖三位一体》、イエスの手、阿弥陀如来の印相をモデルとして2009年以降は90cm角の板を支持体とする〈Qf・Holz 90〉として取り組まれ、近年では正像と色彩のない鏡像を立方体の2面に配する〈Qfキューブ〉が試みられている。

さて一体「絵画が現出する場」とは？ 絵画/像は「現実・リアルの世界」と「精神だけの非物質の世界」のこの二つの世界のわずかに重なり合う両義の場に薄い膜として生成し、精神の世界を背景にリアル、現実の世界に働きかけるのだと僕は考えている。〈Qfキューブ〉が模索しようとするのはその架空の空間性であり、そこでは無数の像が積層され立方体を形成しているのだ。

今回は、その〈Qfキューブ〉のための新作〈Qf・Holz 90〉2点、そして小品〈Qf piece〉の出品となる。

2021.1.20 母袋俊也

※Qf系：正方形(Quadrat)フォーマットを色彩と筆致で充満(full)、母袋俊也の絵画シリーズ



■関連情報

【展覧会】

母袋俊也「シンビズム4 ―信州ミュージアム・ネットワークが選んだ作家たち―」

会期：2021年2月13日（土）― 3月14日（日）

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）

開館時間：9:00 – 17:00（最終入場は16:30まで）

会場：上田市立美術館、2階 企画展示室

〒386-0025 長野県上田市天神 3-15-15 サントミュージゼ内

TEL: 0268-27-2300

入場料：一般 500円、高校生以下無料 ※20名以上の団体 400円、障害者手帳携帯者とその介助者1名は無料

<https://www.santomyuze.com/museumevent/sinbism4-2020/>

【図録】

本展覧会の開催に合わせ、渡辺えつこの1980年代ドイツ留学時代から現在までの作品をまとめた図録が刊行されます。

渡辺えつこ「>> To the window >> From the window >> 1982-2021 Etsuko Watanabe -WORKS- / 渡辺えつこ作品集」

刊行日：2021年3月6日

価格：1,430円（税込）

発行部数：200部

仕様：B5版、64頁、和英バイリンガル

発行：渡辺えつこ

©2021 Etsuko Watanabe

執筆：若山満大（東京ステーションギャラリー学芸員）

英訳：Jan Fornell

ブックデザイン：渡辺えつこ、矢野ヨシコ

写真：柳場大、神保照史、Thorsten Ebeling, Julia Kernbach

■アーティストプロフィール

渡辺えつこ Etsuko WATANABE

1960年 東京に生まれる

1982年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業

1982年-87年 国立デュッセルドルフ・クンストアカデミー（芸術大学）絵画科
ゲルハルト・リヒターに師事

1985年 マイスターシューラー取得

2013年3月までデュッセルドルフを拠点に活動、現在東京在住

<主な個展>

2015 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）

2014 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）

2011 Kunstraum Düsseldorf（デュッセルドルフ、ドイツ）

2003 オンギャラリー（大阪）

2001 Galerie Wolfram Bach（デュッセルドルフ、ドイツ）

2000 Galerie Schütz（フランクフルト、ドイツ）

1999 オンギャラリー（大阪）

1998 Galerie Wolfram Bach（デュッセルドルフ、ドイツ）

1997 Galerie Friese（ミュンヘン、ドイツ）



- オンギャラリー（大阪）
International Führungszentrum Feldafing（ミュンヘン、ドイツ）
Roland Galerie（ケルン、ドイツ）
1994 Galerie Bach & Gayk（ボーフム、ドイツ）
1993 「第2回 海外新進日本人作家紹介展」資生堂ギャラリー（東京）
1992 Galerie Bach & Gayk（ボーフム、ドイツ）

<主なグループ展>

- 2019 「四次元を探しにーダリから現代へー」諸橋近代美術館（福島）
2015 L Gallery（名古屋）
2009 「静寂と色彩展」川村記念美術館（千葉）
2002 Kunst im Krankenhaus Benrath（デュッセルドルフ、ドイツ）
2000 *die farbe hat mich*, Künstlerhaus Dortmund（ドルトムント、ドイツ）
Stadt Land im Fluss, Kunst + Kultur Verein Alte Schule Baruth（バールート、ドイツ）
1999 Kunstraum Düsseldorf（デュッセルドルフ、ドイツ）
1995 *Landschaft! Natur / Stadt*, Kunstsammlung der Ruhr-Universität Bochum（ボーフム、ドイツ）
「VOCA展」上野の森美術館（東京）
1994 *Zu Besuch in der Lindenstr*（アートプロジェクト/デュッセルドルフ、ドイツ）キュレーション：Mathias Winzen
1993 *junger westen*, Kunsthalle Recklinghausen（レックリングハウゼン、ドイツ）
1987 *Kunststudenten stellen aus*, Bonner Kunstverein（ボン、ドイツ）
1986 *Treibhaus 4*, Kunstmuseum（デュッセルドルフ、ドイツ）

<企業コレクション>

- Pfizer Pharma GmbH（ベルリン、ドイツ）
SIEMENS AG / International Leadership Center Feldafing（フェルダッフィング、ドイツ）
ROLAND Rechtsschutz-Versicherungs-AG（ケルン、ドイツ）
資生堂（東京）
Kulturamt Landeshauptstadt Düsseldorf（デュッセルドルフ市文化局）

母袋俊也 Toshiya MOTAI

- 1954 長野県生まれ
1978 東京造形大学美術学科絵画専攻卒業
1983 フランクフルト美術大学でライマー・ヨヒムス教授に学ぶ（1987 帰国）
2000～ 東京造形大学教授
2019 東京造形大学退職、名誉教授
2020 嵯峨美術大学客員教授

<主な個展>

- 2020-21 「母袋俊也〈ta・KK・ei 2020〉奇数連結再始動」NANAWATA（埼玉）
2020 「母袋俊也〈Qf キューブ〉一像が積層する立方体そして絵画の位置一」ギャラリーTAGA2（東京）
2019 「母袋俊也〈浮かぶ像〉一絵画の位置」東京造形大学附属美術館、ZOKEI ギャラリー、CS ギャラリー（東京）
2018 「母袋俊也〈Qf〉源泉と照射」ギャラリーなつか（東京）
「母袋俊也〈パーティカル〉」ギャラリーTAGA2（東京）
2017 「母袋俊也展 絵画のための見晴らし小屋ー小装置とドキュメント」CrossViewArts（東京）
2016 「母袋俊也 Printworks ポートフォリオ《現出の場》モノタイプ《mt 21 「もう一つの世界」に回り込んで》」
ギャラリーTAGA（東京）
Toshiya Motai Painting Paper Works, Galerie E'terna（パリ、フランス）



- 2015 「母袋俊也『空の絵』《ヤコブの梯子・藤野》《Himmel Bild》」BC 工房ふじのリビングアート（神奈川）
- 2014 「母袋俊也 Qf SHOH《掌》90・Holz 2009-2014」ギャラリーなつか（東京）
「母袋俊也 Himmel Bild」ギャラリーTAGA（東京）
「母袋俊也 絵画《TA・KO MO RO》-《仮構・絵画のための見晴らし小屋 KOMORO》」市立小諸高原美術館（長野）
- 2012-13 「コレクションxフォーマットの画家母袋俊也 世界の切り取り方-縦長か横長か、それが問題だ」青梅市立美術館（東京）
- 2011 「母袋俊也 Qf・SHOH《掌》90・Holz 現出の場-浮かぶ像-膜状性」ギャラリーなつか（東京）
- 2010 「母袋俊也 TA・TARO」夢の庭画廊/長野
- 2011 「母袋俊也 Qf・SHOH《掌》90・Holz 現出の場-浮かぶ像-膜状性」ギャラリーなつか（東京）
- 2010 「母袋俊也 TA・TARO」夢の庭画廊（長野）
- 2009 「母袋俊也 Qf-SHOH《掌》90・Holz/145」ギャラリーなつか（東京）
- 2008 「母袋俊也 窓-像 KY OB AS HI」INAX ギャラリー（東京）
- 2007 「母袋俊也 TA・KOHJINYAMA」ギャラリーなつか（東京）
「母袋俊也《絵画のための見晴らし小屋》水平性の絵画<TA>の流れ」辰野美術館（長野）
- 2006 「風景・窓・絵画 アーティストの視点から：母袋俊也の試み」埼玉県立近代美術館（常設展特別展示）（埼玉）
- 2005 「母袋俊也 Qf・SHOH 150《掌》」ギャラリーなつか（東京）
「母袋俊也《Qf》その源泉 エキジビション・スペース（東京国際フォーラム、アート・ショップ内）（東京）
- 2004 「母袋俊也 絵画-見晴らし小屋 TSUMAALI」アートフロントギャラリー（東京）
- 2003 「母袋俊也 TA・SHOH-Qf・SHOH《掌》」ギャラリーなつか（東京）
- 2001 「母袋俊也 TA・MA UNOU HI」エキジビション・スペース（東京国際フォーラム、アート・ショップ内）（東京）
「母袋俊也 mag/fuj ino」ギャラリーなつか（東京）
「母袋俊也 Quadrat/full」ギャラリエアンドウ（東京）
- 2000 「母袋俊也 ARTH・UR・S・SE・ATAR」ギャラリーTAGA（東京）
「母袋俊也 Project 絵画のための見晴らし小屋」ギャラリー毛利（東京）
- 1999 「母袋俊也 ta・KK・ei-TA・ENTJI」ギャラリーなつか（東京）
「母袋俊也 ドローイングインスタレーション ta・KK・ei」ギャラリエアンドウ（東京）
- 1998 「母袋俊也 NA・KA・OH II」ギャラリーTAGA（東京）
「MOTAI Gemälde・Papierarbeiten」ライン・ルーア・クンストアカデミー（エッセン、ドイツ）
- 1997 「母袋俊也 TAaT」ガレリアラセン（東京）
「母袋俊也 TA³/Nakaoh」ギャラリー ル・デコ（東京）
「母袋俊也 Printworks」ギャラリエアンドウ（東京）
「母袋俊也 TAaT」ギャラリーYou（京都）
- 1996 「Wien」ギャラリーTAGA（東京）
「Stephan II」ギャラリエアンドウ（東京）
「TAAT-NA・KA・OH」ギャラリーなつか（東京）
- 1995 「Hossawa」ギャラリーなつか（東京）
「Waage・TA」かわさき IBM 市民文化ギャラリー（神奈川）
- 1994 「from Figure」ギャラリーTAGA（東京）
「from Plant」apt ギャラリー（東京）
ギャラリエアンドウ（東京）
- 1993 「paperfoldscreen -開かれる翼-」ギャラリエアンドウ（東京）
「Koiga-Kubo」ギャラリーなつか（東京）
- 1992 「from Figure」apt ギャラリー（東京）
「素描 1001 葉のf・Zより」ギャラリーTAGA（東京）
「リトグラフ -Le Ballet」ギャラリー福山（東京）
- 1991 「オマージュ 1906 水彩」apt ギャラリー（東京）
「平面・余白・モダニズム」ギャラリーαM（東京）
- 1990 「母袋俊也 絵画・水彩」ストライプハウス美術館（東京）
- 1987 ボン文化センター（ボン、ドイツ）
ギャラリープルマン（フランクフルト、ドイツ）



- JAL ギャラリー (フランクフルト、ドイツ)
1985 シュテーデルシューレ (フランクフルト、ドイツ)
ギャラリーヴィーゼンマイヤー (ヴァイルブルク、ドイツ)
1984 ギャラリーヴィレムス (フランクフルト、ドイツ)
1981 シロタ画廊 (東京)
1980 真和画廊 (東京)
1979 真和画廊 (東京)

<主なグループ展>

- 2021 「シンビズム 4 一信州ミュージアム・ネットワークが選んだ作家たち」 上田市立美術館 (長野)
2016 「美作三湯芸術温度」 湯郷 (岡山)
2015 「第 6 回大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015」 (新潟)
「アートプログラム青梅 2015 感性を開く—一人ができること」 青梅総合高校 (東京)
2014 「見る事・描くこと 一油画技法材料研究室とその周縁の作家たち」 東京藝術大学大学美術館、陳列館 (東京)
「福島現代美術ビエンナーレ 2014」 喜多方市美術館、湯川村道の駅 (福島)
「アートプログラム青梅 2014 まなざしを織る」 青梅市立美術館 (東京)
2013 「色彩の力」 ギャラリーアンドウ (東京)
「アートプログラム青梅 2013 雲をつかむ作品たち」 サクラファクトリー (東京)
2012 「新生 2012 Vol.1」 ギャラリーなつか (東京)
「風・景・観 見逃した世界・ここにある世界」 アートラボはしもと (東京)
「第 5 回大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012」 (新潟)
「アートプログラム青梅 2012 存在を超えて」 青梅市立美術館 (東京)
「福島現代美術ビエンナーレ 2012 SORA」 福島空港 (福島)
2011 「アートプログラム青梅 2011 山川の間で」 青梅市立美術館 (東京)
2010 「アートプログラム青梅 2010 循環の体」 青梅市立美術館 (東京)
「SO+ZO 未来をひらく造形の過去と現在 1960s→」 Bunkamura ザ・ミュージアム (東京)、桑沢デザイン研究所 1F (東京)
2009 「第 4 回大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2009」 (新潟)
「アートプログラム青梅 2009 空間の身振り」 BOX KI-O-KU (旧都立繊維試験場) (東京)
2008 「Harvest 原健と 160 人の仕事」 銀座東和ギャラリー (東京)、東京造形大学 ZOKEI ギャラリー (東京)
「Fuse/Fureru」 SENNON ART GALLERY at USSC/UC (サンタクルーズ、アメリカ)
「アートプログラム青梅 2008 一空気遠近法 U・39」 (東京)
「ワークショップ報告展 風景 画 うまれるとき」 青梅市立美術館 (東京)
「ポリフォニー Bild 画 うまれるとき」 吉川英治記念館 (東京)
「板津版画工房と作家たち」 調布文化会館 (東京)
2007 「Fuse/Fureru」 東京造形大学美術館 (東京)、京都造形大学 ギャラリーオーブ (京都)
「アートプログラム青梅 2007 出会いのよりしろ」 吉川英治記念館 (東京)
2006 「第 3 回大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006」 (新潟)
「<絵画>は<絵画>を超えて」 ギャラリーなつか (東京)
2005 「郷土ゆかりの作家たち II」 新見美術館 (岡山)
2003 「中川久・母袋俊也」 かわさき IBM 市民文化ギャラリー (神奈川)
「第 2 回大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2003」 (新潟)
「代官山アートフェア」 ヒルサイドフォーラム (東京)
2002 「こころのパン 2002 絵画・彫刻」 イズミット市立美術館他 5 都市巡回 (トルコ)
2000 「トルコ支援 日本現代美術展—こころのパン—」 デルメンデレ芸術の家 (デルメンデレ、トルコ)
1999 「第 2 回 Fujino 国際アートシンポジウム'99」 (神奈川)
「SSA・アニュアル展」 ロイヤル・スコティッシュ・アカデミー (エジンバラ、スコットランド)
「Artists+Itazu Litho-Grafik 展」 文房堂ギャラリー (東京)
1998 「神奈川アートアニュアル」 神奈川県民ホールギャラリー (神奈川)
「川村龍俊コレクション展」 東京純心女子大学 純心ギャラリー (東京)



1997 「'97 大邸アジア美術展」大邸文化芸術会館（韓国）

<主なパブリックコレクション>

市立小諸高原美術館（長野）

上田市立美術館（長野）

東京造形大学附属美術館（東京）

オーバーヘッセン美術館（ギーセン、ドイツ）

ヘッセン州立美術館（ダルムシュタット、ドイツ）

コジャエリ大学付属パーキ・コムスオール教授記念美術館（コジャエリ、トルコ）

【本展に関するお問合せ】 ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ オフィス

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#205 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail] info@ycassociates.co.jp

[website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-18:00 [定休日] 日・月・祝日